

了，中部六个省心里就不平衡了，说我们不是“东西”。这个话是双关语，它不是东边也不是西边，在汉语里不是东西这是气话，后来就呼吁中部崛起，中央后来采纳他们的意见，于是乎就中部崛起。这样形成了现在中国的四大板块，就是东部、中部、西部、东北。在这一过程中提出来所谓“5个统筹”。这“5个统筹”，我看，是毛泽东1956年论“十大关系”的再版，在新形势下针对具体的情况提出来的。这个具体，我的文章里面，不是这次会议，我上次在我们爱知大学的国际问题研究所的《摘要》杂志上面也有一篇文章，在南京开的那次会，中国改革开放30年社会经济的发展。我把它梳理了一下，这5个统筹提出来的过程，来回应这个问题。所以不仅是对正面的有预期，而且超额达到了，也有对负面的问题，还有3分钟，我就讲这几位都说到了。

加加美先生我们是朝夕相处，他的问题我们以后交流的机会很多，我只想问你一下，就是你讲的开发的政治和现在讲的发展政治学，在学理上、在研究的领域、对象、它的研究范畴上，有什么区别？

还有3分钟，我只简单讲一下我的一个比喻。现在中国讲科学发展观，又讲到4大领域，所谓4大领域就是经济、政治、社会、文化，如何协调发展的问题，我现在有一个比喻。比喻成一匹骏马，

中国在跑，跑得很快，这4方面比作是4条腿。这4条腿，它不可能齐头并进，但它也不可能一条腿特立独行，3条腿离得很远，这就是一种动态的协调过程。在80年代改革开放初期的时候，思想解放，后来，反“自由化”“精神污染”的时候，在打压思想启蒙的时候，也举了一个例子，就好像孵这个小鸡，小鸡已经破壳而出了，甚至于小公鸡已经打鸣了，你们还想把它塞回去，塞回到鸡蛋壳，这办不到。现在思想启蒙在继续，以不同的形式，最新的著作，我推荐就是原来江苏省委书记、新华社香港分社的社长，“六四”以后出走的最高的官，许家屯先生的《大世纪》，对社会主义、资本主义，对美国的罗斯福在上次危机的时候的新政改革和邓小平的新政，作了很好的比较，很大的视野，很深刻的反思，已经有一部分发表了，书还没有完全刷清出版。所以，启蒙并没有终结，它只是从空间上，由海内转到了海外，另外，从人格载体上，从我们这些老家伙变成了“80后”、90年代这些年轻人，他们的平台是网上，中国现在的网民是超过美国，是世界最多的。他们非常活跃的思想，当然里面也是各种各样的观点，特别值得警惕的是民粹主义的倾向。但是，希望还是在这里，我对中国的发展包括中国的政治改革的前途，很有信心。

ディスカッション

○座長 それでは、お二人のコメントをお聞きになって、壇上で発言した方がおられれば、台上的各位如果需要发言的，听了两位这个评论，有什么感想呢？首先许纪霖教授，听了臧志军教授的评论，好像谈到你的一些问题……随便，2分钟……すみません、中国語で話してしまいました。もしよければ2分間で。

○許紀霖 感谢两位评论人的提问。第一个，我想简单说一下，我们这个抽象调查当然是一个自我认定，问卷调查，宗教信仰这是一个自我认定，如果你回答有的话，要作一些选项，到底是五大宗教里面，选择什么，还有一些民间宗教包括祖宗崇拜，这是一个自我认定，这我简单回应一下。第二个，我非常赞成张琢教授的分析，这是我来的时候自己

讲的，中国的宗教虽然是复兴，但是这个复兴背后，宗教也有一个世俗化的趋势。这也不是中国现在才有的，实际上，中国从古代来说中国的宗教和欧洲美国并不一样，他不是一神教的传统，所以它就象杨庆坤先生分析的那样，中国的宗教它注重的不是一个信仰，而是神和人之间互惠的关系，而这种互惠关系更多的带有一种物质的成分，这也是中国宗教的传统。所以，在这个点上，在今天这样一个物质主义的时代，宗教世俗化表现得越来越明显，我们可以看到越是香火旺的地方，比如说杭州的灵隐寺，浙江的普陀山，香火越旺的地方，你越是觉得那些寺庙里面红尘滚滚，所以这也是一个非常复杂的现象。那么，我想我就做这些补充，谢谢。

○座長 ほかにおられませんか。

○金観濤 我簡單回答一下問題。現代社會的修正動力來自于何處？當然是現代性的黑暗面，也就是20世紀的巨大災難。歷史學家有長19世紀短20世紀之說。長19世紀法自法國大革命到第一次大戰，基本是個全球化的時代。短20世紀是從一戰以後一直到1989年。我們知道，西方要到1960，70年代才恢復到一戰以前的繁榮。

至於是不是有些東西不會“脫嵌”，當然是有可能的。比如環境，環境肯定是個有機體，人類經濟永遠無限增長的是否有可能，我是懷疑的。至今還不能說社會可以從環境有機體中脫嵌。第三個問題涉及到Rawls正義論在操作是不是可能。當然是有問題的，Rawls正義論只是在道德上為政府干預經濟，比如說這次美國這次救市，提供正當性而已。但是，實際做起來有很多問題。我要強調的只是，即使今天碰到了那麼大的問題，退到傳統社會有機體是不可能。實現和諧一定要尋找新的路，謝謝！

○座長 壇上の他の方々に発言をいただきたいのですが、あと15分しか時間がないので、フロアから質問をいただいて、それに答えるようなかたちにしたいと思います。フロアの方で、どなたか発言がある方。鈴木さんから、お願いします。その次にこちら、田中さんにしますので。

○会場（鈴木） 愛知大学の鈴木と申します。政治哲学を専攻しております。3点ほどおうかがいしたいと思います。

皆さんのお話のなかに、「価値」というキーワードが頻繁に出てきました。一般に価値の想定にあたっては、例えば、神のような超越した存在を想定しないと、なかなか価値という問題を議論することが難しいです。その点について、どのようにお考えかというのが第1点です。

2点目に、許先生にとりわけおうかがいしたいと思います。最近、中国の大学では、たくさん宗教学科ができてきているという話をニュースなどで見ました。ここ10年ばかり、中国政府、国家教育省が、むしろそれを推進しているような感じがありますが、その宗教学科設立の背景にどのような意図があるのでしょうか。また宗教学科のなかの教育プログラムは、特に宗教学は政治学と同じぐらい怪しい学問で、そもそも宗教とは何かということの定義すらできない学問として、世界中で

いろいろと議論されているわけです。そのなかにあって、中国で新しくできている宗教学科とは、どのようなことを教えているのでしょうか、教えていただければと思います。

それから、毛里先生の話との兼ね合いもありますが、デモクラシーというのは、価値の剥奪の過程、これはフランスのマルセル・ゴージュ (Marcel Gauche) という政治哲学者が言っております。要するに自分よりも上の存在を規定しないで、自分たちの社会性を決める制度としてデモクラシーが、近代に入っているわけです。

その自分と同じ人間が、かつての王や皇帝と同じような位置にいるということの矛盾が、近代のデモクラシーの基本的な問題だと思います。この点について、欧米流のデモクラシーの概念が中国と不適合する場合、現代中国の政治社会を考えるときに、自分たちの存在とは超越的な何かを考える考え方というのは、どこかに乖離があるのかどうか、というやや抽象的な質問で申し訳ございませんが、以上3点をおうかがいしたいと思います。ありがとうございました。

○座長 続いて田中さん。今の点、短くお願いします。先に質問を受け付けますので。

○会場（一般） 田中忠仁です。昨日も質問しました。それぞれにご質問したいのですが、ひとつまとめて、加々美先生にお願いします。結論的に2つだけ申し上げたいことの1つは愛知大学の「愛」、この加々美先生の提唱された問題も、来年、突き詰めていっていただきたいということ。それでまた私も、命ある限り出たいと思っています。

2番目に、私は南京に元三菱商事の社員として40カ月駐在していました。水の問題。これは絶対に中国にとって、先ほど孫先生とお話したことをあらためて申し上げますと、H₂Oの「H水」という、アルカリ度の低い水を私は研究していて、今後の自分の会社の大きな方針にしようと思っています。

それはどのような意味かと申しますと、酸素水は、化合物がCO₂ですから環境に悪いです。それに対して、H₂Oはアルカリ度が非常にペーハー (ph) の問題です。ですから、ぜひ中国と日本との間で、そのH₂Oの「H」の亀の甲の今後の

中国における開発、これを絶対に開発しなければ、中国はおそらく雨の少ない、数百ミリしか降らないと、前のセッションでも話がありました。今も水の問題は、日本では降りすぎているのです。これはしょうがありません。だから、H₂Oのこの問題も含めて、ぜひやっていただきたいと思います。

○座長 ほかには。ではどうしましょう。呉先生ですね。

○会場(呉) 感谢各位，我是浙江大学吴晓波，我问三个问题。两个比较简单的问题，一个是问许老师，许纪霖老师，讲到那个中国现在有一个价值缺失的问题，你作了一个调查，我想有没有一个可以比较的，对比的，在海外其它国家的调查，这是一个问题。另外一个问题，我问下那个毛里教授，提到中国的发展，有4种主要的范式，你最不希望看到哪种范式。但是我想问一下，你所希望的，或者说你认为日本学术界里面比较主张的可能是哪一种范式？最后一个问题就是讲世俗化的问题，我认为世俗化在中国现在是一个典型的趋势，似乎也不可阻挡。但是从我自己，我自己是个外行，但是从我自己的知识来说的话，其实文艺复兴以后整个人类文明都出现世俗化。我想问不管你们哪一位专家，能不能谁来说一下，世俗化到底是一种倒退还是一种进步，是对中国而言，谢谢！

○座長 ほかの方にもご発言頂きたいのですが、時間の関係で、先に壇上の方から答えていただくことにします。許紀霖氏にいくつか質問が集中しましたので、まず許紀霖先生からお願いします。

○許紀霖 我简单回答一下和我有关的两个问题，一个是关于中国大学现在的宗教系，现在的确综合性大学里面都开始设有宗教系，这些宗教原来在中国大学的体制里面，是属于哲学的，是哲学的二级学科，现在慢慢宗教系就开始独立于哲学，成为一个独立的系。这些宗教的系里面教的是关于宗教的一般课程，当然也主要是对特别和中国有关的5大宗教的一些基本的一些介绍和研究，这方面是中国学术体制里面的一个变化。国外的宗教研究非常发达，现在各方面的学术交流也很多，特别是中国现在有这么多的宗教的复兴，所以促进了在学术领域对宗教的研究。一般而言，现在政府对宗教的控制比以前要松动得多，我前面已经讲过，这是一个个人宗教信仰自由的问题。但是，有一条界限，这

个界限就是你不能成为一个有组织的系统。因为中国有官方的各种各样的教会和佛教组织，但是现在也有很多的地下的教会，非常活跃，可能这些人数有时候要远远超过官方的教会。但是，这些地下教会他们是小规模的问题不大，如果形成一个跨地区的组织的话，可能对政府来说这是一个威胁，因为前面有法轮功的教训。这方面的控制象过去一样，还是比较严厉的，这是一个关于宗教的情况。关于那个类似的海外的这方面的调查，我想说明一下，我们整个调查不仅仅是针对宗教，是关于当代中国人的精神生活。宗教只是整个调查中的一部分，还有其它方面的包括它的一些文化取向，各种取向等等。这方面的国外的调查非常非常多，可惜由于我们现在时间有限，还没来得及和国外相关的一些国家作类似的做一些比较的研究，我想以后这方面一定要做，谢谢。

○座長 それでは、毛里さんにいくつか質問がありました。

○毛里 ありがとうございます。パラダイムというか、モデルを設定して意識的にやろうというのが私の最近の試みですが、4つ挙げました。

一番好きというのか、最も私の感覚に合っているのは、やはり近代化モデルです。近代化モデルでやることは、いわば頭のなかにある無意識の尺度でだいたい対象を測れますので、中国がもしそれで理解できると、一番すっきりするわけです。しかし、これで成功した試しがないというのが実情です。好きなモデルですが、思うようにいきません。

それから、最近の日本の中国研究で、例えば社会学や政治学で、アジアと中国の共通性でしょうか、やはり中国はアジアだということから、東アジアモデルみたいなものに惹かれる人々がかなりいると思います。

私も他方で、近代化モデルでは駄目ですから、例えば日本、あるいは台湾、韓国などの事例と中国とを頭の中で比較しながら考え直すということをやると傾向があると思います。

ただ、学間によって少し違っています。例えば、経済学の方は、新古典派の議論で、中国の経済現象の95%は説明できると言います。問題はその説明できない5%を説明するための道具はなにか、という点に経済学者の関心が集中するのでし

よう。しかし政治学をやっている私などからすると、それは反対ではないかと思うのです。つまり説明できないのが 95%だ、ということです。つまり、学問によっても、また個人によっても、モデルやパラダイムの設定の仕方は異なってくるのです。

○座長 時間がきました。まとめをするには少し時間が足りませんが、先ほど私にも1つだけ、「愛」の問題という質問がありました。というよりも、実際には、むしろ「友愛」ということでお話ししましたので、「愛」とは少し違います。

先ほど言いましたように、ポランニーは、フランスの三色旗に現れている「自由・平等・友愛」という3つの理念を近代政治理念として提起し、そのうち自由と平等は、近代化過程のなかで制度化に成功したという。

ところが、友愛は語られただけであり、その制度化に成功しなかった。わずかにユーゴスラビアで労働者自主管理という体制が、本当に短期間、実現しただけです。

その意味では、金観濤先生がお話になられていますように、近代という1つのパラダイムと言ってもいいでしょうか。近代というものに既存のパラダイムがあるとすれば、既存の近代のパラダイムのなかには、どうしても「友愛」は含まれません。

つまりその意味では、「和諧」というものを、金観濤先生の言葉では、「エンボディメント (embodiment)」することは非常に困難であるということは確かです。

しかも、それがもう中国が今日大々的に進めています「開発主義」という1つの理念のなかで、決定的な隘路（あいろ）、つまり天井にぶつかっている。この隘路にあっては成長そのものが挫折するだけでなく、場合によっては、中国の社会的安定が相当崩れる事態が将来あり得ないことではない、ということです。そう考えた場合に、開発主義という政治理念と「和諧」に代表される「友愛」の価値観の相克の問題は避けて通れません。

それにしても、「和諧」という定義は曖昧です。それは劉青峰先生がお話になったとおりです。

先ほどの質問にありましたように、許紀霖先生

に対する質問として、世俗化という条件のもとでの宗教の復興の問題です。そこでは否応なしに宗教そのものが社会的利害関係の中に組み入れられるので、必然的に価値観・倫理観の世俗化を通じた崩落をもたらします。もう少し言えば、その根幹にあるのは、許紀霖先生が提起されたように、核心价值的の失落、中核的な価値観というものがいけば失われてきています。

これは先ほど呉先生が質問なさいましたが、日本にも典型的に現れます。中国では文化大革命後、1970年代中期に既に之に関連した意識調査がありました。調査結果は中国社会に信仰危機 (xin yang wei ji) が蔓延しているということでした。私は許紀霖先生に個人的にも少しお話ししましたが、革新的価値の喪失は21世紀に始まった問題ではありません。その根底を流れているのは、1970年代の半ばから始まった信念危機です。この現象は不思議と日本の場合と時間的に合致しています。

ご存じのように、日本では1980年安保闘争が起きませんでした。1990年安保闘争もありませんでした。2000年の安保闘争もありませんでした。そのことの持つ意味、もちろん論壇上ではほとんど語られていませんが、かなり深刻な核心的価値の喪失が、日本のなかにも見られるということです。その点では、中国と日本は、まるでお互いを鏡に映したかのように非常に似ています。

むしろ、少し違うところもあります。日本は戦後50年代末から「開発」に傾斜し、そして高度発展を達成しました。その意味では、中国のほうは後発です。日本と比べると、相对来说、中国還算是一个后発ということは言えます。しかし、基本的にその道筋には非常に似た部分があります。

その過程で、核心的価値が喪失されてゆくわけですが、そのなかでいったい「和諧」なるものが可能でしょうか。つまり近代というものが統一化された社会、別の言い方をすれば、均質化された社会を必然的に生み出すものであるとすると、「和諧」というのは、多元性・多様性を前提にしていますから、そこに価値的にあい矛盾する事態がしょうじるのです。公害紛争の状況のなかでも、さまざまな主体の利害関係が対立・矛盾を起こし、倫理、道徳、価値観においても大きく異なってきた

ます。それをどのように和諧させるのか、和諧に持ち込むかというのは、まず対立を避けては通れません。絶対に対立は避けられないのです。対立を避けて、抽象的な和諧というものはあり得えません。ですから、その意味で、私たちの研究姿勢は、具体的な状況の中に研究者の主体を埋め込む形で和諧の道筋を明らかにすることが大切で、和諧を抽象的に語ってばかりいてはならないということになるかと思えます。

最後に長いコメントをしましたが、金観濤先生、劉青峰先生、許紀霖先生、張玉林先生、毛里先生、臧志軍先生、張琢先生、どうもありがとうございました

ました。

○司会 大変ありがとうございました。さすが政治セッションで、非常にラジカルなセッションだったように思います。

皆さん、今日は一日、大変お疲れさまでした。午前中は慌ただしい経済セッション、それから午後は落ち着いた環境セッション、最後はラジカルな政治セッションでした。明日はもっと余裕のある文化セッションがお待ちしております。

それから今日、不満を持っている方は、明日、総合討論の時間がありますので、ぜひその場で不満を解消してください。